

支え合い地域で伸びていく「チーム」

⑪③ キャップスクリニック亀有 (東京都葛飾区)



取材時、院内には「ハロウィン仕様」のディスプレイが。亀有独自の試みとして本の貸し出しサービスも行う。選書は代官山蔦屋書店のブックコンシェルジュに依頼し、院で購入

「2012年の4月にキャップスこどもクリニック西葛西を始めたところと同じような手応えを感じています。休日だと、1日に130人くらいの患者さんがお見えになる。『今まで医療機関でここまで説明をしてもらえたことがなかった』という声を多く聞きます。説明をしてもらうことに感動を覚えて帰っていく方々が非常に多い」——運営に当たる白岡亮平理事長が語る「今」だ。

キャップス4番目のクリニックとして9月1日、JR亀有駅前南口、イトーヨーカドー「リリオ館」6階に開院。またたく間に2カ月が過ぎていった。東京・

葛飾区でのオープンには理由がある。

「私たちがつくるクリニックにはある程度の規模感が必要。一般の診療所の倍くらいの敷地面積を使っています。それに見合う物件を探していました。もう一つは人口。子育て世帯が多く、需要のある地域に開院したい。デベロッパーの方からお話があり、代官山や西葛西、北葛西を見てもらった上で『入ってほしい』と声が掛かりました」

キャップスの開院は「箱」としてのクリニックに加え、人材教育にも力を入れる点に特徴がある。意思を同じくするスタッフを集め、育っていくにはそ



右手にはタブレットとモニター。タブレットでは問診を行い、モニターには季節ごとの医療情報が流れる

乳幼児健診の計測ルーム。特別待合室から診察室に連なる通路の途中にある



診察室。後ろ側に処置室を設け、すぐに対応できる



特別待合室はこれまでのクリニックよりも広い空間を備える。ワクチンの数も増え、健康な子供が快適に過ごせるように配慮した



小児科・内科を標榜。同じフロアには他にも診療所や調剤薬局が並んでいる



クリニックが入るイトーヨーカドー亀有駅前店。駅からのアクセスは非常に便利

れなりの時間がかかるものだ。「人の集まり具合と物件がマッチしたときに開く」。亀有の開院までには約半年の準備期間を要した。

これまでの開院ノウハウを生かしながら、亀有では多少の微調整も加えている。例えば、レイアウト。職員が必要とする最小限の基準を踏まえ、なおかつ快適さを保てるプランを組み立てた。

「あまりに広く、開放感がありすぎると、患者さんと距離ができる。スタッフ間の意思疎通にも支障を来すこともあります。人と人とがつながりやすい距離感をここでは重視しました」

待合の広さ、受付と診察室の距離といった点に配慮。人情味あふれる下町という地域の特性も視野に入れた院内空間を展開している。8月末に開催した内覧会には地域の人々が約500人訪れた。キャップスの特徴である365日稼働、夜まで診療する点が歓迎されたのはもちろん、「代官山や西・北葛西のクリニックを知っていて、『やっと地元でできたんだ』と言ってくださる方もいた」

先行するクリニックも成長の途上にある。相乗効果もあって、亀有の立ち上がりは予想以上に早い。クリニック間で支え合いながら伸びていく。